

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	(1) 授業改善により確かな学力の向上を目指す。 (2) 外部機関との連携により支援を的確に行う。	(1) 生徒の実態や多様な学習ニーズに対応した柔軟な教育課程の研究を推進する。 (2) 主体的な学びに向けた組織的な授業改善を推進し、基礎基本的な学力の定着と学習意欲の向上を図る。	(1) ①柔軟な教育課程の編成に向け、全教科で見直し・改善を図る。 ②年間の授業時数を見直し、学習の「量」を確保する。 ③3年間で卒業を希望する生徒に対して、「ガイダンス等認定試験」「技能審査」等の理解を深めさせ、実現に向けた支援を行う。 (2) ①ICT活用やグループ学習を導入した授業研究を進め、生徒の学習意欲の向上を図る。 ②授業において基礎基本的な学力の定着を図るとともに、主体的な学びを通じ、思考力等の育成を図る。 ③各教科「定期テストの共通化」の実施に向けた検討を進め、教育の質の向上と共通性の確保に努める。	(1) ①教育課程の見直し・改善が図れたか。(担当者による評価) ②年間の授業時数を増やすことができたか。(年間授業時数調査) ③三修制を希望する生徒の卒業率を上げることができたか。(卒業生数の推移) (2) ①組織的な授業改善ができたか。(担当者による評価、生徒による授業評価アンケート) ②生徒の基礎学力、思考力等を伸ばす授業ができたか。担当者による評価、生徒による授業評価アンケート) ③共通テストが実施できたか。(共通テストの実施率)	(1) ①自由選択科目の内容の検討に一定の成果を得た。 ②期末試験等の見直しにより授業時数を確保した。 ③校外単位認定が36名となりガイダンスの成果を得た。 (2) ①ICTの活用はほぼ全教科で実施し、生徒による授業評価アンケートも良好である。 ②基礎学力、思考力等を伸ばす授業に関しても、生徒によるアンケートは良好である。 ③共通テストの実施率は前年度より向上した。	(1) ①新指導要領の施行に伴う教育課程の見直しの中で、引き続き自由選択科目の見直しの検討を実施する。 ②授業時間の確保に向け、引き続き学校行事の見直し等に取り組む。 ③三修制の卒業率を上げると同時に校外単位認定が授業の軽視につながらないよう努めていく。 (2) ①組織的な授業改善に向けさらに全校体制で取り組んでいく。 ②外国籍の生徒への支援及びアクティブラーニングの積極導入に努める。	・外国につながる生徒が多いという中で教育に取り組むことについて大きく評価する。学校では中国系の生徒が多いようであるが、地域でもさまざまな国籍の家庭が増えていて、外国につながる生徒が激増している。	・自由選択科目の内容の検討及び選択に向けての指導を今後も継続して行っていく。 ・学習の「量」の確保に向け行事の見直し等を行っていく。 ・三修制を希望する生徒の卒業率アップに向け授業内容を充実させる。 ・授業改善は年々成果を見せている。さらに生徒のニーズを踏まえ研究を重ねていく。 ・共通テストの実施について教科での検討、研究を深めていく。	・柔軟な教育課程の編成に向け、全教科で見直し・改善を図る。 ・学校行事等の見直しを重点課題としてグループ、学年等で早期の検討を図る。 ・三修制を希望する生徒の支援を強化していく。 ・ICTの活用やグループ学習等を導入した授業研究を進めるとともに、アクティブラーニングを意識した取り組みを推進する。 ・各教科「定期テストの共通化」の実施に向けた検討を進め、教育の質の向上と共通性の確保に努める。
2 生徒指導 ・支援	(1) 規範意識を身に着けた円満な人格形成をする。 (2) 健康に留意し心身の調和的発達を目指す。	(1) きめ細やかで粘り強い生徒指導に取り組み、生徒の規範意識や基本的な生活習慣の育成を図る。 (2) 生徒の自立に向けた支援体制を組織的に行い、自己肯定感や自己有用感を育む。	(1) ①授業中の携帯電話に対する指導や二足制の遵守等、生徒のマナーやモラルの向上に向け、職員間で統一した指導を行う。 ②巡回指導と生徒への声掛けを通じ、問題の未然防止に努める。 ③本校の「学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止に努め、生徒間の円滑な人間関係の構築に向けた支援をする。 (2) ①様々な課題を抱える生徒に対する支援を、SC、スクールメンター、外部機関と積極的に連携し組織的に行う。 ②生徒の学校行事や部活動等への主体的な取組みを促進し、自己肯定感や自己有用感を育む。 ③多文化教育コーディネーターや外部機関と連携し、日本語を母語としない生徒の支援を推進する。 ④インクルーシブ教育に向け	(1) ①生徒が基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守り、学校生活を送ることができたか。(特別指導件数の推移) ②巡回指導を通じ、問題行動を未然に防ぐことができたか。(特別指導件数の推移) ③速やかな情報収集と早期対応ができたか。(担当者による評価) (2) ①職員全体で生徒の状況を把握し、組織的な支援ができたか。外部と連携できたか。(担当者による評価) ②生徒の学校行事や部活動等に対する自主性・主体性を高めることができたか。(担当者による評価、部活動加入者数による推移) ③日本語を母語としない生徒に対して支援ができたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート) ④研修や外部連携ができたか。(担当者による評価)	(1) ①②特別指導件数をH24年度93名からH28年度40名にまで減少させた。 ③生徒対象アンケートやいじめ問題検討を定期的に行い、迅速な情報収集と早期対応を図ることができた。 (2) ①職員全体で組織的に生徒の情報共有を図り、外部機関と連携し支援することができた。 ②生徒の自己肯定感や自己有用感を高められたが、主体的に取り組める支援体制づくりを継続的に構築することが課題である。 ③今後は、異なる文化を持つ生徒相互の交流ができる支援体制を構築する必要がある。 ④インクルーシブ教育について継続して個々	・卒業式の様子を見て、定時制の生徒は卒業が当たり前でないという状況の中で、卒業を迎えた生徒たちの喜びが爆発していたことが大変感激的であった。生徒と教員、生徒同士の豊かな交流の様子が伺えるものであった。 ・文化祭において全日制とも良く連携を取り、交流を図っている。今後もよりよい企画を行って欲しい。 ・生徒がいかに学校に通う事が楽しくなるか工夫して生徒指導をしている。	・巡回指導や生徒への声掛け等、粘り強い指導を継続させることで、特別指導件数の減少を促進した。 ・生徒対象アンケートやいじめ問題検討を有効に活用することで迅速な情報収集と早期対応を図ることができた。また、外部機関との連携による支援も効果的に行うことができた。	・生徒のマナーやモラルの向上に向け、職員間で統一した指導を行う。 ・巡回指導と生徒への声掛けを継続し、問題の未然防止に努める。 ・円滑な人間関係の構築に向け支援をするとともに、いじめの未然防止に一層努めていく。 ・SC、SSW、スクールメンター、及び外部機関と積極的に連携しながら、様々な課題を抱える生徒、保護者に対する支援を組織的に行う。 ・学校行事や部活動等への主体的な取組みを促進し、教科外活動の充実を図る。 ・日本語を母語と	

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				た準備を更に進めていく。		を取り入れた。 ④外部講師によるインクルーシブ教育の研修を行った。	に応じた合理的支援を考える必要がある。			しない生徒の支援を推進する。 ・インクルーシブ教育に向けた準備を推進する。
3	進路指導・支援	(1) 外部機関と連携し、外国につながる生徒等のキャリア支援体制づくりに取り組む。 (2) 進学を希望する生徒のニーズに応じた取組みを推進する。 (3) 計画的・系統的なキャリア教育の実践を通じて、生徒に職業観・勤労観を身に付けさせ、自らの意志で将来を設計する能力を育成する。	(1) 進学希望者に対して夏季集中講座や補習等、進路実現に向けた取組みを充実させる。 (2) ①外部機関との連携によるキャリア支援教育を積極的に行い、生徒の人間関係育成能力やコミュニケーション能力を育む。 ②校外の就業体験学習(インターンシップ)や会社見学、上級学校見学を通じ、生徒の勤労観、職業観を育成する。	(1) ①生徒に的確な情報提供、進路指導を行うことができたか。(担当者による評価) ②進路決定者の割合が増加したか。(進学率の推移、生徒対象アンケート) (2) ①外部機関による説明会や就業体験学習(インターンシップ)を効果的に実施できたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート)	(1) ①6月以降3・4年生を対象に、進学・就職指導を定期的に行った。 ②卒業生の大学・専門学校等進学者の割合が13.7%、就職内定者は17.8%となった。 (2) インターンシップを計画通りに行い、生徒に好評であった。	(1) ①的確な情報提供・進路指導を継続していくと共に、生徒一人ひとりの状況に応じた丁寧な指導を続けていく。 ②進路に関し、進学意識の变革、学力の向上及び就職に関する意識啓発を行っていく。 (2) 外部機関と連携し、特別授業や就業体験学習を計画的かつ継続的に実施する必要がある。	・四年制大学や専門学校への進学や民間企業への就職等、生徒の希望に応じた進路指導を行なっている。	・3・4年生を対象に、進学・就職指導を定期的に行った結果、生徒の意識も少しずつ改善され、大学・専門学校等進学者の割合ともに伸びを見せた。 ・インターンシップを計画通りに行い、生徒の職業観育成に役立った。	・進学希望者に対して夏季集中講座や補習等、進路実現に向けた取組みを充実させ実績につなげる。 ・コンソーシアムサポーターと連携し、インターンシップや会社見学、上級学校見学を通じ、将来に向けた勤労観、職業観を育成する。	
4	地域等との協働	(1) 地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組む。	(1) 家庭・地域と連携し問題の未然防止や早期対応に努めると共に、「協働」「共育」により安心安全な学校づくりを目指す。	(1) ①ホームページやメール配信システム等を通じ保護者や地域に対し、情報発信を速やかに行い、教育活動の見える化を図る。 ②保護者・地域・警察等と連携し、問題の未然防止に向けた取組みを強化する。 ③地域パトロールや美化活動等、地域貢献活動を積極的に行う。 ④保護者、地域等との協働による行事を実施し、共に育む体制を構築する。	(1) ①ホームページの更新がスムーズにできたか。速やかに情報発信できたか。(担当者による評価) ②保護者・地域・警察等と連携し、問題の未然防止ができたか。(担当者による評価) ③地域貢献活動ができたか。(実施状況) ④地域や保護者との協働による教育活動ができたか。(担当者による評価)	(1) ①ホームページの更新については、行事予定の更新、行事の報告を速やかにおこなった。 ②概ね達成できたがまだ課題はある。 ③④有志の生徒の参加を得て、地域清掃活動を実施した。三ツ沢南町内会とも地域パトロールへの参加等、連携を継続している。	(1) ①行事予定の更新、行事の報告以外の情報の発信についても検討して行きたい。また、ホームページの更新業務が担当可能な職員を増やしていくようにする。 ②学校警察連携制度を活用し連携を深めると共に未然防止を図る。 ③④地域貢献活動への生徒の参加を拡充できないか、工夫をしていきたい。	・地域貢献を積極的に推進することで生徒の問題行動を減らし、災害時に対応できるようにしたい。	・ホームページの更新については、一定の成果を出せた。今後さらに全体の充実に努めて行きたい。 ・今年度も地域清掃活動を実施したが、多くの生徒の参加についても検討していきたい。三ツ沢南町内会とは地域パトロールへの参加等を通じ、良好な関係を継続している。	・情報発信を速やかに行い、教育活動の見える化を図る。 ・保護者・地域・警察等と連携し、問題の未然防止に取り組む。 ・地域パトロールや美化活動等を積極的に行う。保護者、地域等との協働による行事を実施し、共に育む体制を構築する。
5	学校管理 学校運営	(1) 常に安全・安心で快適に学べる教育環境の整備に努める。	(1) 事故・不祥事防止に努め、地域・保護者に信頼される学校づくりを推進する。 (2) 生徒の防災意識を高め、安全策強化に努める。	(1) 事故・不祥事防止研修等を通じ、職員全体が高い意識を持つとともに、日頃より何でも相談できる風通しの良い職場環境を整える。 (2) 地域等と連携し、防災教育を推進するとともに、防災マニュアルについて必要な改善を行う。	(1) ①研修等を通じ、職員の意識を高めることができたか。(担当者による評価) ②点検体制を強化し、事故・不祥事ゼロを実現できたか。(担当者による評価) (2) 生徒に対する防災教育を実施できたか。(担当者による評価)	(1) 引き続き証明書や成績関係書類等のチェックに留意して取り組んだ。 (2) 大地震を想定しての避難訓練と帰宅困難となった場合の指導を実施した。防災訓練を通して、避難経路や避難指示の手順見直しを行った。	(1) 個人情報の管理についても徹底して取り組んでいく。 (2) 防災訓練を通じ、引き続き大地震を想定しての避難訓練と帰宅困難となった場合を想定した指導を実施していく。避難経路や避難指示の手順についてはさらに見直しをおこなって行きたい。	・証明書発行や成績処理については順調に取り組むことができた。 ・大地震を想定しての避難訓練と帰宅困難となった場合の指導を実施した。また、夜間を想定した防災訓練を通して、避難経路や避難指示の手順を確認できた。	・事故・不祥事ゼロを目指し、職員全体が高い意識を持つとともに、職場環境を整える。 ・入学者選抜、成績処理、調査書作成、等について一層の事故防止に努める。 ・生徒の個人情報の適切な管理の徹底を図る。	